

インターバンクの声（2015年3月17日）

先週の火曜日以降、翌朝出勤してきた時のドル円価格が、前日の退社時に確認したレートとほぼ同レベルになる日々が続いている。この間、米国の小売売上や生産者物価指数、ミシガン大学消費者信頼感指数の発表などがあり、ニューヨーク時間にそれなりの反応を見せてきたが、何故か翌朝の東京市場は前日の夕刻時と概ね同じレートで戻って来ている。この現象も続いたとしても明日の朝まで限りの可能性が高い。米国時間では18日の午後だが、日本時間では19日木曜日の未明に米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果が発表され、イエレン議長からも何らかのメッセージが発せられるだろう。すっかり有名になってしまったFOMC声明文の『忍耐強く』との文言の削除があるのかどうかの部分に注目が集まっているが、さすがに木曜日の朝の相場が冷めたままということはないだろう。ニューヨーク・ダウも前日に下落した反動や欧州株の上昇もあって再び騰勢が強まった。昨日静かだった日経平均が今日連れ高になるのか定かではないが、上昇があっても為替相場には余り影響がないかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。